

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年目)

## 1. 研究課題

北朝石窟寺院の研究 II

Studies on the Buddhist Cave-temples in the Northern Dynasties II

## 2. 研究代表者氏名

岡村秀典

Hidenori OKAMURA

## 3. 研究期間

2020年4月-2023年3月(3年目)

## 4. 研究目的

中国山西省にある雲岡石窟は、5世紀の北魏時代に開鑿の始まった仏教寺院である。1938年から1944年までの7年間、人文研の水野清一と長廣敏雄らは、その大小すべての石窟を対象に測量・写真撮影・拓本を作成し、戦後にその報告書『雲岡石窟』全16巻32冊を公刊した。そのPDFを京都大学リポジトリに公開した結果、各界から大きな反響が寄せられ、なかでも中国から中国語版の出版について打診があり、研究班で原報告を会読するとともに、中国社会科学院考古研究所との共同編集により旧版の中文訳に加えて旧版未収録の写真・拓本類を増補した『雲岡石窟』全20巻を出版した。これをふまえて本研究班では、龍門石窟や響堂山石窟など北朝石窟にかんする人文研所蔵写真・拓本類の整理と公開を継続して進める。

The Yungang Caves, located near the city of Datong in Shanxi province in China, are a group of Buddhist cave-temples excavated in the latter half of the fifth century by the Northern Wei dynasty. Between 1938 and 1944, following on from investigations of the Xiangtangshan Caves in Hebei province and the Longmen Caves in Henan province, the Research Institute of Oriental Culture, the predecessor of the Institute for Research in Humanities, Kyoto University, carried out investigations of the Yungang Caves and neighboring sites. A report of these investigations was published in the form of the voluminous Yunkang (1951-1956) in 16 volumes and 32 fascicules by Mizuno Seiichi and Nagahiro Toshio. This research seminar set about researching on the visual materials and field notes collected from such investigations with the goal of systematically digitizing and actively promoting the further use of these research resources, and making them available to the public.

## 5. 本年度の研究実施状況

今年度は研究班の最終年度にあたるため、東方文化研究所が1938～1944年に中国山西省大同市雲岡石窟で調査した人文研所蔵ガラス乾板の写真と拓本、原報告（水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』全16巻、1951-56）と新報告（京大人文研・中国社会科学院考古研究所編『雲岡石窟』全4巻、2017）、現地の雲岡石窟研究院などが新たに調査報告した資料など、雲岡石窟における北魏から遼金までの石刻を網羅的に集成し、釈文・語注・解説を加えた倉本尚徳主編「雲岡石刻録一『雲岡金石録』改訂版」を『東方学報』京都第97冊に発表した。また、人文研国際研究ミーティングとして、招へい研究員として来所されたイ・リドゥ先生（フロリダ国際大学）による6月21日に「從《大吉義神咒經》對石窟功能的再思考」、7月5日に「對山東青齊地區窟龕造像及題記的再思考」、7月19日に「對平城墓葬中佛教題材的思考—以邢合姜墓壁畫為例」と題する連続講演会を実施した。その成果論文は来年度の『東方学報』に発表される予定である。

## 6. 本年度の研究実施内容

2022-04-05 雲岡石刻録 発表者 倉本尚徳

2022-04-19 雲岡石刻録 発表者 倉本尚徳

2022-05-17 雲岡石刻録 発表者 倉本尚徳

2022-06-07 雲岡石刻録 発表者 倉本尚徳

2022-06-21 從《大吉義神咒經》對石窟功能的再思考 発表者 Lidu YI

2022-07-05 對山東青齊地區窟龕造像及題記的再思考 発表者 Lidu YI

2022-07-19 對平城墓葬中佛教題材的思考—以邢合姜墓壁畫為例 発表者 Lidu YI

## 7. 共同研究会に関連した公表実績

「北朝石窟寺院の研究」班「雲岡石刻録一『雲岡金石録』改訂版」『東方学報』京都第97冊、2022年

## 8. 研究班員

所内

岡村 秀典、稲本 泰生、安岡 孝一、フォルテ・エリカ、倉本 尚徳、向井 佑介、佐藤 智水、高志 緑

学内

内記 理(文化財総合研究センター)、檜山 智美(白眉センター)、富岡 采花(文学研究科)

学外

外山 潔(泉屋博古館)、齋藤 龍一(大阪市立美術館)、山名 伸生(京都精華大・総合人文学部)、大西 磨希子(佛教大・仏教学部)、石松 日奈子(東京国立博物館)、濱田 瑞美(横浜美術大)、北村 一仁(河南農業大)、篠原 典生(中央大・総合政策学部)、田林 啓(白鶴美

術館)、高橋 早紀子(愛知学院大・文)、苫名 悠(大阪大谷大・文)、呉 虹(復旦大学・哲学学院)、アヴァンツィ・カルロッタ(秋田県立大)、王 砒人(京都国立博物館)、上枝 いづみ(金沢大学・人間社会研究域)、黄 盼(中国社会科学院・考古研究所)、常 鈺熙(北京大学・考古文博学院)、打本 和音(京都芸術大学)

### 9.共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数				延べ人数					
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
			(0)	(0)	(0)	(0)		(0)	(0)	(0)	(0)
学内(法人内)		12	2	1	1	1	65	9	7	7	7
国立大学		1	0				0	0			
公立大学		1	1				5	5	0		
私立大学		7	0				32	0	0		
大学共同利用機関法人		0	0								
独立行政法人等公的研究機関		3	1				13	7			
民間機関		2	0	0			0				
外国機関		4	3		2	1	17	10	10		
その他 ※											
計	0	30 (0)	7 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	132 (0)	31 (0)	17 (0)	7 (0)	7 (0)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文（単著・共著）				
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文（共著）	1			
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）				
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文（共著）				
⑤国外の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）				

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

雑誌名（必須）	掲載論文数（必須）	掲載年月日（必須）	論文名（必須）	発表者名（必須）
東方学報	1	R4.12	雲岡石刻録一『雲岡金石録』改訂版	倉本尚徳・岡村秀典・稲本泰生ほか

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

なし

12. 博士学位を取得した学生の数(人)

	人数	記入例
博士学位を取得した学生の数		3

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由  
なし

14. 次年度の研究実施計画  
なし

15. 次年度の経費  
なし

16. 研究成果公表計画および今後の展開等  
立つ鳥跡を濁さず、今年度に研究成果のすべてを公開した。